



道総研

2026年4月17-19日に金星丸による貝毒プランクトン広域調査および全湾ラーバ調査を実施しました。

● ラーバの出現は昨年よりも遅いとみられる

ラーバの平均出現密度は10個/トンと昨年(1,076個/トン)と比較してかなり少ないです(図1)。本誌2号でお知らせしたとおり、昨年のように生殖巣指数の3月から4月にかけての低下が見られず、産卵が遅いことから、**昨年よりも遅れている**と考えられます。

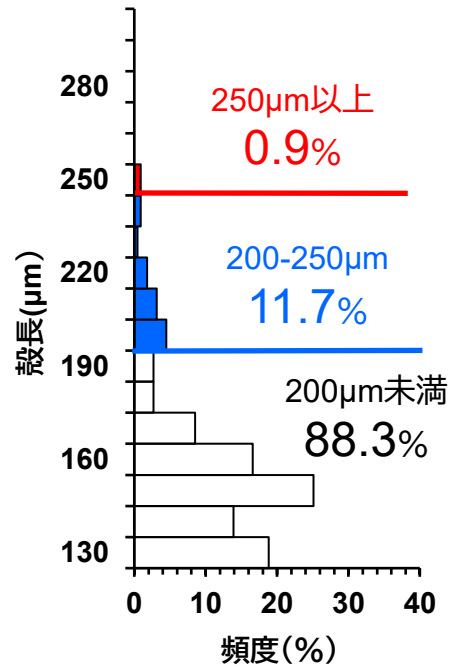
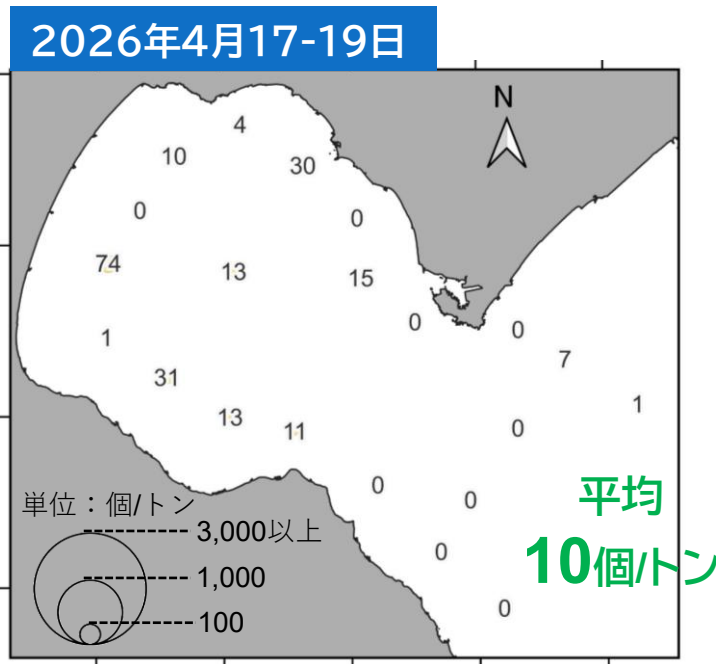
● 後続のラーバが見られる

140 μ m未満の小型ラーバの割合が多く、後続群が現れています(図1)。今後、産卵盛期を迎え、ラーバの出現数が増えることが見込まれます。

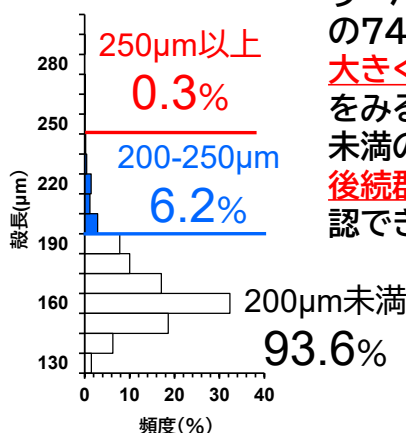
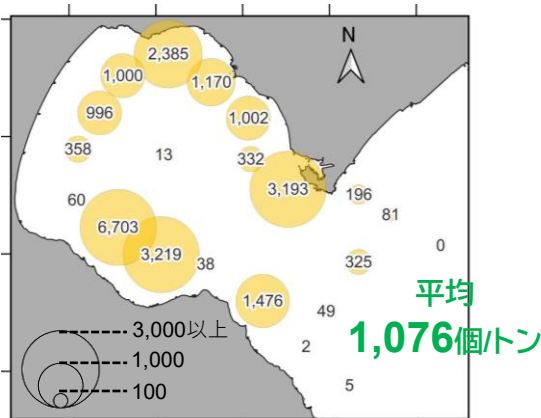
● 貝毒プランクトンは昨年よりも少ない

湾外の貝毒プランクトンの出現密度の平均値は、昨年は50細胞/Lを超える比較的高い密度でしたが、今年は16細胞/Lと昨年を下回りました(図2)。

図1 ラーバの分布と殻長組成 **昨年よりも少ない。後続群が発生中。**



参考:2025年4月23-24日



ラーバの出現密度は長万部沖の74個/トンが最大と**昨年を大きく下回りました**。殻長組成をみると、昨年よりも140 μ m未満の小型個体の割合が高く、**後続群が発生している**のが確認できます。

図2 貝毒プランクトン広域

昨年よりも少ない。4月の密度は低い

- ・近年の高毒化の原因として、湾外から湾内への貝毒プランクトンの流入の可能性が指摘されています。
- ・今年(2026)4月は、湾外の密度が昨年よりも低いです。
- ・湾口部鹿部沖では若干高密度(187細胞/L)でした。ここでは増殖が活発な4連細胞がみられました(写真1)。普段は単独が多いです(写真2)。

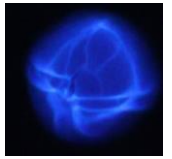
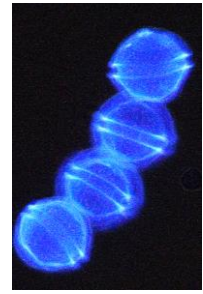
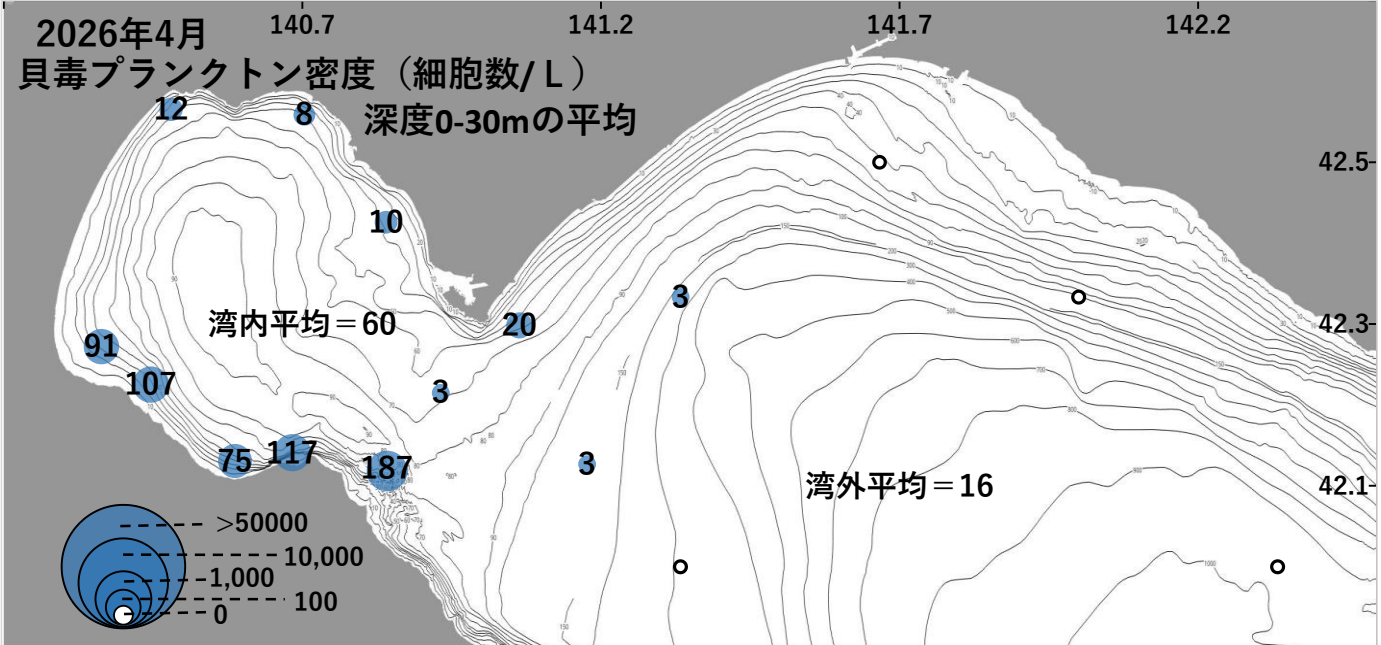


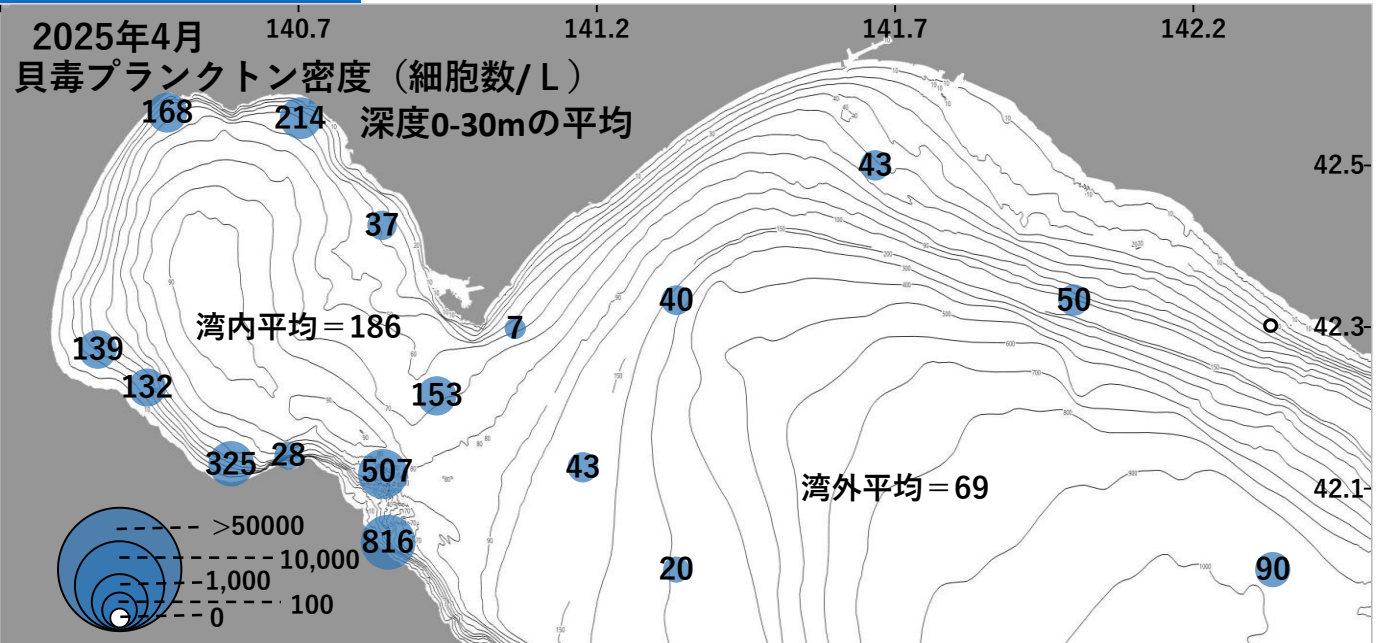
写真1

写真2

2026年4月



参考:2025年4月



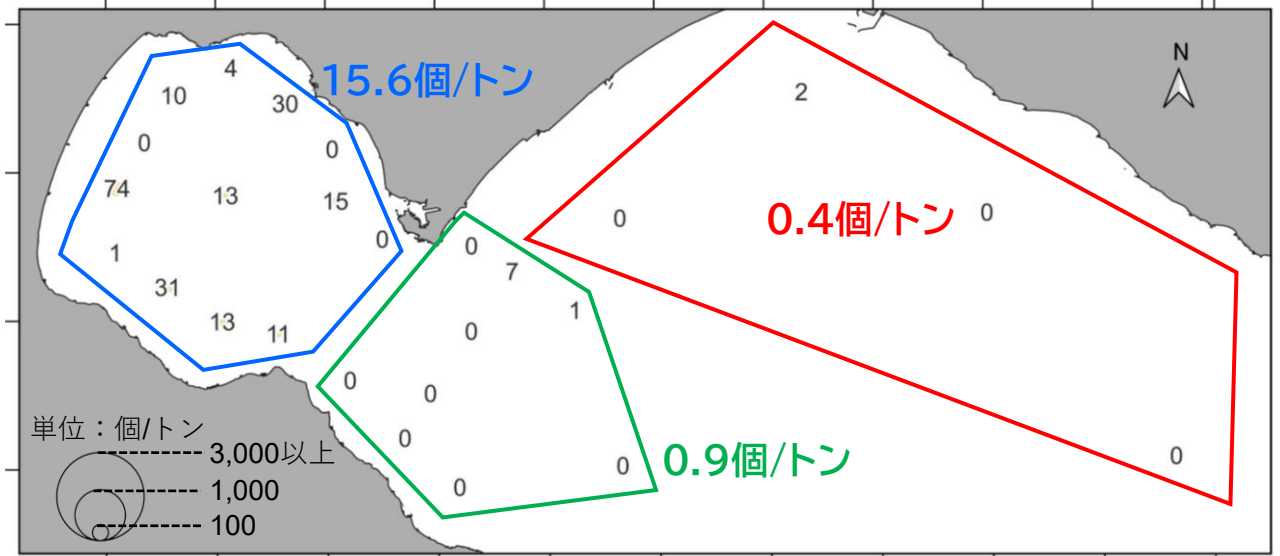
付図 湾外のラーバの分布

0.4個/トン程度と非常に少ない

太平洋西部海域(赤色の範囲)にもラーバは出現していますが、最高で2個/トンと非常に少ないです。

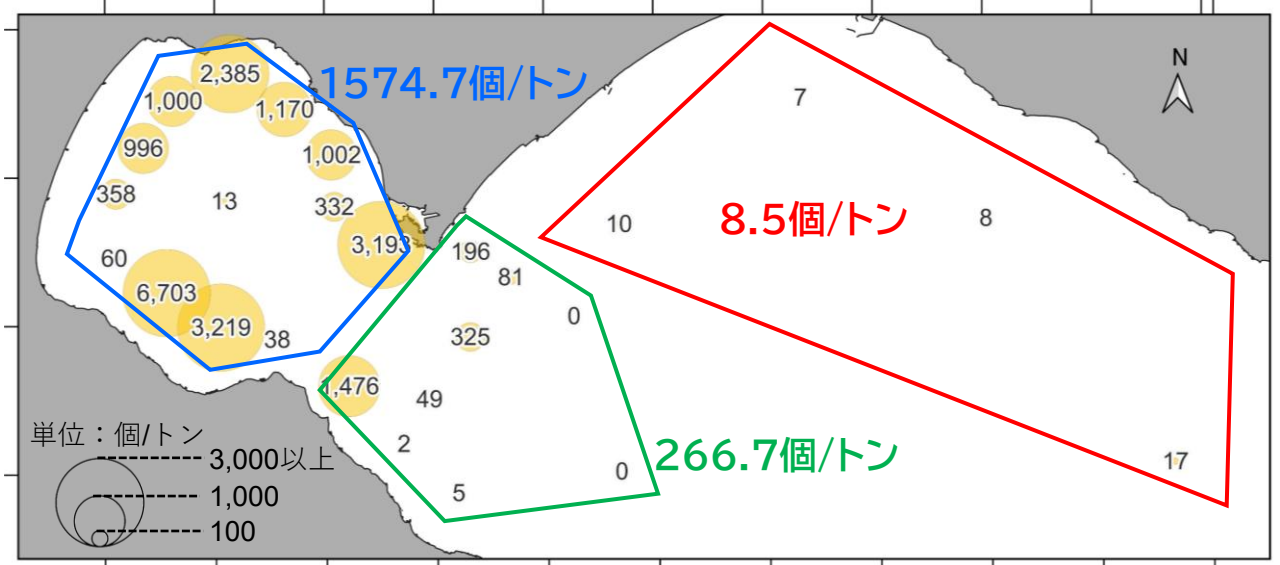
2026年4月17-19日

単位:個/トン



参考:2025年4月23-24日

単位:個/トン



今後の予定

5月上旬に全湾ラーバ調査2回目を実施予定です。

本調査は北海道ほたて漁業振興協会の受託研究「噴火湾ホタテガイ生産安定化試験」で実施しています。